第５分科会　「外来と在宅をつなぐケア」

運営委員（敬称略）　高橋　多鶴子（全日赤医療センター第一労組）
小笠原　めぐみ（慶応病院労組）
吉田　一恵（健康文化会医療労組）
助言者（敬称略）　岩澤　光子（元日赤医療センター　退院調整看護師）

2012 年度の診療報酬、介護報酬ダブル改定では医療と介護の役割分担、在宅医療の充実、円滑な地域移行と医療・介護の連携を促進するために退院調整機能や医療機関の連携が強化されました。一方介護面では、軽度介護者の給付削減が行われ、在宅療養生活が厳しくなっています。看護教育においても２００８年学校養成所指定規則一部改正において、在宅看護論が重点課題とされ、在宅完結型ナースの養成が強化されました。

そしてあいかわらず急性期病院では、医療依存度の高い患者（在宅ＩＶＨ、在宅酸素療法、気管切開、胃瘻、創傷ケア、ガン末期）が短期間で在宅療養に移行するケースがますます増えています。今や化学療法、放射線療法も外来治療が主流で、外来での処置、検査、治療はますます複雑、多様化、高度化しています。療養型病院においてもいまだかつて無いほど医療依存度の高い患者さんが急性期病院から転院しています。

また、多くの急性期病院の外来では、外来専任看護師が減らされ、パート、臨時職員を配置する傾向になっています。さらに医療クラークが看護師の変わりに、外来診療補助業務をしている実態が多数報告されています。

一方在宅療養の担い手である、訪問看護や、訪問診療、訪問介護に従事するスタッフの処遇改善が十分でなく、まだまだその数は充足していません。

この分科会では、病院や診療所の外来に従事する看護師と在宅療養を支える訪問看護、訪問診療、訪問介護にかかわるスタッフが、患者さんが安全で安定した在宅療養をおくるためにどのように連携し、それぞれの役割を果たしてゆくのか、患者のニーズに即した実践をしてゆくのか、経験交流をする中で「外来と地域をつなぐケア」について学びましょう。

みなさんの経験と知恵を出し合い、元気な楽しい分科会にしましょう。

■レポート募集（以下の内容のレポートお待ちしてます。）

・在宅療養移行のための退院調整や地域連携の取り組み報告
・外来での看護実践報告
・訪問看護での実践報告
・訪問介護での実践報告